揖斐川町学校教育の在り方審議会
たにぐみ幼児園保護者との意見交換会（議事録概要）

１　日　時　令和８年３月６日（金）　＜開会＞15時00分　＜閉会＞16時00分
２　場　所　たにぐみ幼児園　遊戯室
３　出席者
　　審議会委員　徳永 恵理奈、中島 勝義
　　事　務　局　事務局長 所 貴宏
　　保護者・家族　16人
　　幼児園教員　５人

４　次　第
（１）挨拶＆概況説明
・　徳永委員より、開会の挨拶を行う。
・　事務局長より、「揖斐川町における学校教育の現状と課題」について説明を行う。

（２）意見交換
参加者：子どもの人数が少ないという話が多くあったものの、個人的には人数が少ないほうがきめ細かくみることができるのではないかと思っているが、それは違うのか。
委　員：例えば、今の清水小学校では２・３年生の人数が合計で15人だが、岐阜県では２学年の合計が16人以上で各学年１クラスとなるため、２・３年生が１つの学級になっており、１人の担任が２つの学年を担当している。そういった場面も踏まえてお話すると、おっしゃるとおり人数が多いと目が行き届きづらくなり、少ないと目が行き届いて手厚くなるということはあるが、人数が多くても目が行き届くよう、例えば１つの学級を２つに分けて少人数で勉強するような取組みもある。少人数と大人数のどちらがよいかについては、それぞれ長所と短所とあるため言い切ることは難しい。
委　員：他の幼児園で出た意見としては、小学校で２クラスあるとクラス替えができ、今のクラスでつらい思いをしている子どもがいてもクラス替えで気持ちを変えられるのではないかという意見や、人数が少ないと一人一人に目が行き届きすぎて、そっとしておいてほしいと思う時など、隠れる場がなくなってしまうという意見、大人数の小学校に通っているからこそ少人数で丁寧にみてほしいという意見もあった。私の所属するやまと・きたがた幼児園について話をすると、80名くらいで日々を過ごしているが、人数が多いからきめ細かくなくなるということはなく、一人一人を丁寧にしっかりとみさせていただいており、大人数には大人数で気の合った子たちで集まって遊ぶことができるというよさもあると考えている。
参加者：私たちは数年前に移住したためこの地域のこれまでの流れについてはわからないが、人数が少ないところは少し気になっており、谷汲では中学校まで同じメンバーで成長することを考えると、友人関係等で何か悩みが出てきた時にどうアドバイスすればよいか悩むことはありそうだと感じている。
参加者：私は谷汲小、谷汲中を卒業したが、その後大垣市の高校に入学した際に学年の人数の多さにカルチャーショックを受けたので、中学校までにクラス替えや大人数での生活を経験することも大切ではないかと考える。ただ、今の谷汲小を卒業した者として、

せっかくきれいな校舎なのでなくしてしまうのはもったいないと感じている。

参加者：少人数でも子どもに先生の目が行き届いていると普段から感じており、とてもよいことだと思っている。子どもの数が減っており、学校統合も仕方がないかもしれないが、今のままでいられるならばそれがよい。

参加者：私自身は小学校から高校まで1,000人を超えるような学校で育ってきて、子どもの環境と様々な点で異なっているが、現状幼児園でも先生によくみていただいており、子どもをとても褒めていただいている。この今の環境については心配するところがなく、悪い方向には考えていない。子どもの数が減っている点については少し心配しており、学校統合も必要なのかもしれないが、それはそれで子どもたちが変化する環境に慣れることができるというメリットがあると思う。

参加者：幼児園について、未満児のクラスが運動会に参加できないことが上の子の頃から少し寂しく感じている。揖斐川町で決まっているという話も聞いており、先生の負担という問題もあるかと思うが、どうしても未満児なりの歩く姿を見たいという気持ちもあった。私が小さい頃には未満児のクラスも運動会に参加していたように思うし、地域によっては参加しているところもあると聞くので、大きなことではなくとも行進するような姿が見られると嬉しいと考えている。また、どうしても下の子がいると、その子の世話をしながら上の子の競技を見なければいけなくなり、集中できないという部分もあるため、少し改善していただけるとよいと思っている。

委　員：未満児が運動会に出なくなった背景には、コロナ禍を機に変えたということもあるが、夏の暑さが理由としてある。近年残暑が厳しく、未満児が練習や本番で外に出ると暑さに耐えられないということで推奨できないと考えている。４～５歳児になると少し体力がつくため、短時間であれば外でも練習できるが、今は３歳児でもほぼ遊戯室の中で練習している。また、最近は保育要領も大きく変わっており、３歳以上では教育に、未満児は基本的な生活習慣を身に付けるなどといった養育に重点を置いている。運動会は教育的な要素が多いため、そういった観点も踏まえながら、未満児に無理をさせてはいけないという考えから、運動会への参加をしていないということがある。未満児のきょうだいがいる場合は運動会の時に園で預かることになっているが、たにぐみ幼児園では預かりを行っているのか。

参加者：お手紙には、きょうだいがいる場合は預かるので相談してほしいと書いている。

委　員：やはり上の子ががんばっている姿をしっかり見ていただきたいという思いから未満児を保育すると決めているため、遠慮なく言っていただけるとよい。
例えば屋内の活動であれば、クリスマス発表会などは２歳児から参加している。成長の過程をみながらそういったものに取り組んでもらっているが、運動会についてはかつて無理をさせすぎていたようにも思っているので、そうした反省を踏まえて今の形態になっているということをご理解いただきたい。

参加者：すでに出た意見と同様で、やはり人数が少ないことは寂しく思う反面、その少ない人数であることで先生にしっかりとみていただいているということもある。このままでもよいと思う気持ちも人数が多いことで楽しいことや学べることが多いという気持ちもあるため悩ましく、流れに身を任せたいと思っている。

参加者：私はすでに成人した子どもと幼児園に通う子どもがいるが、上の子は中学校の時にいじめを受けて転校したことがあった。そのため、人数が多い場合にもそういう問題が起きるかもしれないが、少なくてもこういうことが起き得ることをご理解いただきたいと思っている。人数が少ないメリットもデメリットも知っているが、無事に成人し

てくれた今デメリットのほうが多いと感じているため、私は統合に賛成の立場である。

参加者：子どものクラスには女の子が私の子どもしかおらず、今後中学校までメンバーが変わらないことを考えると、高校に入学した時に女の子とうまく接することができるのか心配している。仕方がないことではあるが、今後思春期になった時にも周囲に女の子がいないと困るのではないかと考えており、もしもこのまま女の子が増えなかった場合に学校はどう対応してくれるのだろうか、と思っている。

参加者：幼児園でも小学校でも、人数が少ないことで担任でない先生からも全員の名前を知ってもらえており、そうした点から安心して預けられているということがある。
また、谷汲小はほぼバス通学にしてもらえておりありがたいと思っているが、人数が少ない分バス停から１人で歩く距離が長く、その間の安全性の問題がある。バス停まで迎えにいくためにはその時間までに帰らなければならず、祖父母に頼ることや何人かで帰ることができれば安心だがそれも難しいため、その点については心配している。

参加者：私自身少人数の学校や複式学級、小学校の閉校などを経験したが、その時は様々な感情がありつつも、大人になった今考えると特に問題もなくよい経験だったという思いがある。ただ、子どもを預ける立場になると、少人数の手厚さのよさを感じる一方で、高校入学の前段階としてこのまま少人数の環境だけで過ごして大丈夫なのか、という思いもある。昨日やまと・きたがた幼児園に遠足にいって、大人数で遊んだことが楽しかったと言っていたため、大人数でも楽しいのだろうとは思うので、どのような形でも今後子どもたちが過ごしやすい環境に変化してもらえるとよいと思う。

参加者：私自身長瀬小出身で、閉校式にも出ており、また小学校で転校も経験したがその学校も今年閉校したと聞いている。閉校した際には子どもながらに寂しいと思った記憶があり、今後小学校や幼児園がなくなるという時には同様に寂しいだろうと思っている。
また、やはり田舎なので、学校統合の際には通学距離が延びると考えられ、その場合の登下校について心配している。

事務局長：統合するかどうかはまだ決まっていないが、通学方法についても審議会の検討課題にしていきたいと考えている。ただし、学校統合をする場合には当然バス通学ということにはなると思われる。現状でもバス通学をしている子どもたちの中で一番遠い場合には約50分かかっており、そうした点からもこの課題に対応していく必要があると思っている。

参加者：私が通っていた小学校ではクラス替えがあり、合わない人と離れられたり好きな人と一緒になれたりという楽しさがあったため、それを自分の子どもにも経験させてあげたいと感じている。私の子どもは全員同じクラスがよいと言っており、それには関係性が深まるというよさもあるが、固定的な関係ができたりいじめがあったりした場合にも６年間一緒に過ごすことになるので、恐らく子どもながらにつらくなるのではないか。このことを考えると、やはり学年が変わるごとにクラス替えがあるとよいと思う。個人的には、小学校はすぐに統合することはないとのことだが、中学校は全員同じ学校に入学するようにして、全員で学び合える環境をつくってもよいだろうと考えている。
また、今の不登校の子どもへの対応はどのようになっているのか。

委　員：学校においては、教室に行けないという子どもが学校に通うことができるよう、校内に支援センターという部屋をつくり、そこに通うことができるようにしている。また、養基小学校の隣の揖斐郡教育研修センターには「ほほえみ教室」という空間があり、そこへ登校できるようにすることでその子なりの学びを補助する取組みもある。さら

には、町内にはフリースクールもあり、そういうところに通って学びながら登校につなげていくということもある。ただ、どこの学校でも基本的には必ずしも登校しなければならないということではなく、スクールカウンセラー等が関わりながら、その子が自分で学び方を決めることができる環境を保障するということを行っている。

参加者：私のめいが学校に通えておらず、その原因が先生だったということがあった。私もその学校に行って校長先生と話をしたが、その時にも無理に来る必要はなく、来たいと思えるタイミングで来てくれればよいということを言われた。揖斐川町は手厚く対応しているということを聞けて、納得した。

委　員：私も不登校の子どもを担任したことがある。何年も来ていなかった子を初めて担任した時に、毎週末手紙を届けるということを続けていたところ、次第に対面することができ、３学期からはずっと学校に来てくれたということがあった。私が何かしたわけではなく、家族や周囲がどう関わるのかということが大事だと思っているため、学校が一概に何かすることが必ずしもよいとは思っていない。それぞれのタイミングがあり、もしかすると背中を押してあげないといけないこともあると感じるため、本人と保護者とで話をしながら考えることが大事であると自分の経験から思っている。

参加者：幼児園も小学校も少人数なので先生の目が行き届く、という点を保護者としてありがたいと思っている。子どもたちは幼児園や学校に行きたくないと言うことがなく、行けない日にはそのことを悲しんだり、夏休みがいらないと言うくらい行きたがったりしてくれるほど好きだと思える幼児園や小学校がなくなることは、正直寂しいと思っている。また、統合して多くの子どもたちの中で揉まれることも大事だと思うが、谷汲の子どもたちがもつ優しさや温かい雰囲気は、少人数の中で先生に手厚くみていただいているおかげだと思っている。他の自治体には小学校と中学校で縦割りのように連携して学んでいる学校もあると聞いているが、揖斐川町にもそういうものがあってもよいのではないか。立地から考えても、谷汲から町内の他の地域の学校に通うためには山を越えてなければならないというイメージがあり、また谷汲は積雪量が多いため、雪が降る時期に本当に通えるのだろうかという心配もある。そうしたことを考えた時には、やはり谷汲のよさを残すという選択肢もあってもよいのではないか。

最終的に決めるのは揖斐川町や先生たちになると思うが、子どもたちは順応力が高く、子どもたちはどの場所に行くことになっても学び楽しむことができると思う。それを見習って、我々保護者も子どもと一緒に成長していきたいと考えると同時に、この谷汲という地域を大事にしていきたいと強く感じている。

参加者：たにぐみ幼児園は規模が小さい分、先生が全員の名前をわかってくれていたり、子どもたちも私たちの顔を覚えてくれていたり、入園前から誰もが子どもの名前を知っていてくれていたりするので、アットホームでよいところだと思っている。そうした環境が配付資料の４ページに書かれている自己肯定感の高さにつながっていると思い、納得した。谷汲には谷汲踊りなどの文化が継承されているので、学校統合をする場合にもそういったものが何らかの形で残っていくとよい。

（３）お礼

・　事務局長より、参加者に対してお礼を申し上げる。

以上、閉会